



FC岐阜

防災について考えよう 1/2

全国各地で豪雨などによる災害が発生する中、今後の災害に備えるために、防災の重要性が高まっている。令和3年5月、国の避難情報に関する表現が変更となり、これを機に家族などで防災について話し合うきっかけになればと思いから、FC岐阜公式マスコットキャラクターであるギッフィーを用いた子供向けのチラシを作成し、岐阜市内の小学校等に配布し、また、岐阜県の協力により防災出前講座を実施した。



活動場所 長良西小学校



協働者

学校、行政

協働者名

岐阜市立長良西小学校、岐阜県危機管理部防災課

Voice

協働者の声

岐阜県危機管理部防災課／伊藤 亮平 氏



災害から命を守るためには、危険なところから逃れること(避難)が必要です。「自らの命は自ら守る」意識のもと、普段から家族でハザードマップを確認し、いつ・どこへ・だれと避難するか決めておきましょう。災害の危険が迫っている時は、気象情報や避難情報等に注意し、災害が起こる前に避難完了をお願いします。



活動詳細情報

1

[公式サイト①](#)

2

[公式サイト②](#)

カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





FC岐阜

防災について考えよう 2/2

Story

近年、出水期において、土砂崩れや河川の氾濫の発生により、全国各地で甚大な被害をもたらす災害が頻発している。

岐阜県では、2018年、2020年の2回にわたる大雨特別警報により甚大な被害が発生しており、また、2021年も、大雨により各地で土砂災害などが発生するなど、予断を許さない状況が続いている。

2021年5月、国の「避難情報に関するガイドライン」が見直され、避難情報にかかる表現が変更となった。この見直しを機に、家族などで防災について話し合うきっかけづくりとなるよう、FC岐阜は防災啓発に関するチラシを作成し、保育園や小学校



などに配布したり、また、岐阜県防災課協力のもと、岐阜市内の小学校を訪問し、防災出前講座を開催した。

防災というワードは、「ネガティブ」な印象を受けがちだが、FC岐阜のマスコットキャラクターのギッフィーを用いるなど、子ども達に少しでも防災に興味を持ってもらうよう工夫を行った。

県防災課の担当者は、実際にこれまでに起こった災害の写真を見せるなど視覚にうったえながら分かりやすく子ども達に伝え、「危ない場所から逃げるのが大切で、いつ避難したら良いかというのは、難しい言葉を覚えなくても色で覚えて避難をしよう」と呼びかけた。

さらに、「災害が起きてから考えると焦ってしまうので、普段から家族で話し合い、命を守るための行動をとってほしい」と伝えた。

講座を聴いた児童たちは「家が川に近いので、オレンジ色が出たら、近所の人と協力して非難したい」や「ハザードマップを見て避難する場所を決めたい」、「今まで考えたことはなかったけど、家に帰ったらすぐにおうちの人と話し合おうと思う」など、



学んだことをすぐに活かそうとしていた。今後もFC岐阜は、今回のようなチラシの作成や講座の開催だけでなく、防災サッカーの実施などさまざまな取り組みにより、地域の防災活動に取り組んでいきたい。